

新生児マニュアルの考え方

新生児期の電話相談のために

胎児（母のお腹の中）



羊水に浮かび、
酸素と栄養を与えられ、
光の刺激のほとんどない
水中生活。

新生児



自分で呼吸し、
体にかかる重みに耐え、
光の変化に慣れていく時期



新生児の身体的特徴概要

* 呼吸回数が多く、呼吸の調節も慣れない。

肺は体の割に小さく、成長のために酸素を多く使うので、呼吸回数が大人の2.5倍ぐらい多い。

* 皮下脂肪や筋肉層が薄く、体温調節も未熟

→環境温や体動で体温が変わりやすい。

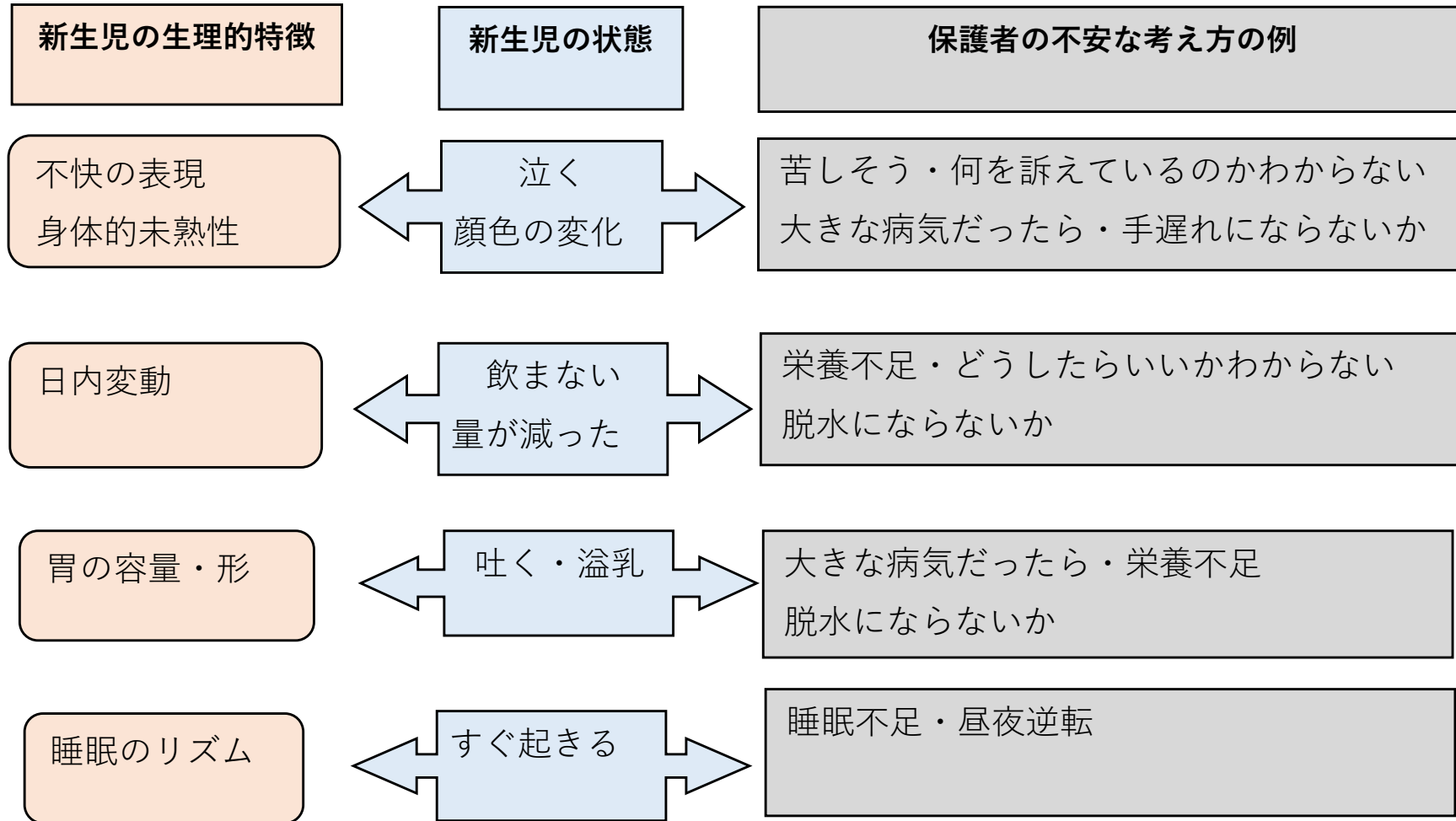
* 胃は小さく丸いため、吐乳・溢乳しやすい。

* 腸の動きも未熟で、腸壁が薄く腸は拡張してお腹が膨らみやすい。

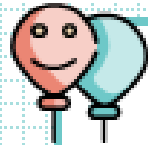
* 視力は0.02～0.05と低い

* 生体リズムは様々な周期。睡眠は2～3時間毎周期が多い。

新生児の状態と保護者の不安な受け止め方の例



週齢に応じて、相談内容が変化



新生児期の相談の変化

1週目

子どもの状態の見方がわからない



保護者は相談員に問われながら確認することで、
見方のポイントや対処の方法を1つ1つ体得していく

2週目

哺乳量と嘔吐



個々の子どもに合わせた排便と哺乳量、哺乳時間
についての相談・指導へと変化していく

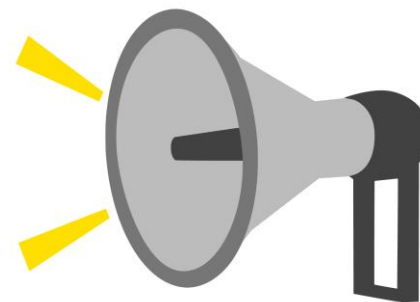
3週目

哺乳量の増加と、排便や腹部膨満に関する
相談が多い

引用：宇田川直子先生「新生児の特徴と傾向」研修スライド 2021.7.10.

資料：宮下ら（2020）新生児について保護者からの相談内容の分析．第67回日本小児保健協会学術集会

新生児の親：教習所も行かずに公道を走るような不安感かも



新生児の対応の基本方針

背景にある保護者の情報（育児行動）を把握し、
日中の小児科受診や育児相談の利用を促す。



* 今を乗り越える

* 病気の場合は重症化しやすい

* 様子を見る場合は、次の授乳の時に、状態を確認